

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

平成 30 年 6 月号



【東牟婁振興局】6/7 新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成
イチゴ炭そ病の簡易検定研修（第1回セミナー）

和歌山県農林水産部経営支援課

（農業革新支援センター）

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1 - 3
1. 囲いショウガ、種ショウガ試作ほ場現地巡回	
2. 第1回和海地方女性農業者交流会を開催！	
3. 小学生を対象に田植え体験学習を実施	
II 那賀振興局	4 - 5
1. 岩出市立中央小学校でねごろ大唐の出前授業を実施	
2. 那賀高校で梅加工体験授業を開催	
III 伊都振興局	6 - 7
1. 伊都地方ファーマーズマーケット連絡協議会の解散	
2. 農業技術講習会 果樹基礎コースの開催	
3. 観光客向け桃狩り観光始まる	
IV 有田振興局	8 - 9
1. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催！	
2. 有田地方リーダー研修会 ～地域の特産品を使って～ を開催！	
V 日高振興局	10 - 12
1. 重点プロジェクト 【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】 ～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒と「露茜斑入果病(仮称)」のまん延防止～	
2. 日高川町新果樹研究会がカンキツの現地研修会を実施	
3. 印南町立稲原小学校で梅の出前授業を実施	

VI 西牟婁振興局	13-14
1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】 ～ウメ摘心栽培実証園の収穫調査結果～	
2. 上富田町立市ノ瀬小学校で「うめの出前事業」実施	
VII 東牟婁振興局	15-17
1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成 ～イチゴ炭そ病の簡易検定研修（第1回セミナー）を開催～	
2. 太田のナス組合がナスの生育・着果状況等を調査	
3. 那智勝浦町果樹園芸会が定例総会及びポンカン栽培研修会を開催	
4. 三津野地域活性化協議会がサツマイモ定植体験を開催	
VIII 農林大学校	18
1. インターンシップ研修を実施	
2. 農家体験研修を実施	
IX 農林大学校 就農支援センター	19
1. 平成30年度社会人課程にて漬けウメの加工実習を実施	
X 経営支援課（農業革新支援センター）	20
1. アブラナ科野菜根こぶ病菌の簡易生物検定研修を開催	

I 海草振興局

1. 囲いショウガ、種ショウガ試作ほ場現地巡回

6月19日、和歌山市種生姜生産促進協議会（和歌山市、JAわかやま、県農、和歌山県）のメンバーで、囲いショウガ、種ショウガ試作生産者のほ場の巡回調査を行った。

囲いショウガ、種ショウガの試作は3年目で、和歌山市内4地区（滝畑、山口、西和佐、山東）5戸の生産者が取り組んでいる。

この日は、本年4月下旬に植え付けられたショウガの出芽状況を確認し、出芽本数などの生育調査を行った。

どの地区においても出芽がよく揃っており、生育は順調であった。今後被害増加が予想されるアワノメイガ等の防除について注意を促した。



ほ場巡回



出芽し始めたショウガ

2. 第1回和海地方女性農業者交流会を開催！

6月26日、JAながみねとれたて広場内研修室にて、同年代の女性農業者同士を繋げ、農業現場での知識の習得を目指してもらう目的で、第1回和海地方女性農業者交流会を開催した。管内の概ね45歳以下の女性農業者6名と女性農業士7名の計13名の参加があった。

研修会では、これから夏本番であるため、「熱中症の予防と対策」というテーマで大塚製薬株式会社の久富健太氏より講演が行われた。参加者らは、水分と塩分の摂取のことや、スポーツ飲料のラベルの見方などについて熱心に耳を傾けていた。

意見交換会では、2グループに分かれて①夏の作業で気を付けていること、作業であったら便利なもの、作業着のアイデア、②女性農業者交流会でやってみたいこと、勉強したいことの2つのテーマについて話し合った。

交流会後のアンケートには、「みなさんの意見が聞けて良かった」や「今日のように役に立つ情報がうれしい」という感想があった。次の交流会は8月下旬を予定しており、農業水産振興課では女性農業者の活動支援に力を入れていく。

女性農業者交流会や新規就農者研修会の情報は海草振興局農林水産振興部のホームページで随時公開している。<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130100/nourin.html>



大塚製薬株式会社の久富健太氏による講演



参加者と職員

3. 小学生を対象に田植え体験学習を実施

農業水産振興課では、小学生等を対象に農業や食べ物への関心、大切さを感じてもらうため、体験学習等の指導に取り組んでいる。

6月14日に和歌山市梅原の貴志正幸氏の水田において、和歌山大学教育学部附属小学校5年生96名を対象に田植え体験を実施した。

田植え体験では、まず園主の貴志氏から「お米は国内で自給できる数少ない農産物であること」や田植えの方法等について説明を受けたあと、実際に水田に入り田植えを体験した。ほとんどの子供達が田植え経験が無く、水田に入るのをためらう子供が多かったが、徐々に馴れ、ほとんどの子供が田植えを楽しんでいた。

貴志氏はアイガモ農法を实践しており、今後、7月にはアイガモと農機具の見学を、10月に収穫体験を計画しており、収穫したお米については家庭科学習の時間に実食を行う予定である。



貴志氏から説明



田植え体験

Ⅱ 那賀振興局

1. 岩出市立中央小学校でねごろ大唐の出前授業を開催

農業水産振興課では、6月21日、中央小学校の5年生3クラス83名を対象に、岩出市特産の「ねごろ大唐」についての出前授業を開催した。

この授業は、子ども達が地元農業に対する理解を深めることを目的とし、栄養教諭と連携しながら総合的な学習の時間を利用して行っている。

当日は、JA紀の里ねごろ大唐部会（会員13人）の中村和史会長を講師に招き、森普及指導員とともに作業風景の写真パネルやねごろ大唐の実物を見せながら説明を行った。その後、生での試食や、ねごろ大唐のじゃこ昆布炒めを試食した。

ねごろ大唐は、ピーマンに比べてくせが無く、果肉が軟らかいので、生でも甘いという感想が多かった。特に炒め物は好評で、おかわりをする児童が続出した。

当日の給食メニューは、ねごろ大唐入り夏野菜のカレーで、児童とともに給食を味わった。

子供達が地域の特産物について学び、作物を育てる人の努力や苦労を理解することで、地元や農業を大切にする気持ちが醸成され、ねごろ大唐の消費が伸びることを期待している。



中村講師による説明



ねごろ大唐じゃこ炒めの試食

2. 那賀高校で梅加工体験授業を開催

6月25日、県立那賀高等学校2年生総合学習選択生徒14人を対象に梅加工体験授業を開催した。この授業は、地域の農業や加工品について学習することを目的として行っている。

当日は、紀の川梅干振興協議会の衣笠貴美代副会長を講師に招き、森普及指導員とともに那賀地方の梅の栽培や加工方法について講義を行った。

講義の後の加工実習では紀の川市産の梅を使い、紀の川梅干の漬け体験と梅ジュース加工体験を行った。紀の川梅干はその後土用干しを行い、10月頃食べ頃を迎える。

農業水産振興課では、今後も食育・地産地消活動の一環として、紀の川梅干をはじめとする地元の農産物のPRに努めていく。



衣笠講師による授業



加工体験を行う生徒

Ⅲ 伊都振興局

1. 伊都地方ファーマーズマーケット連絡協議会の解散

この協議会は、農産物販売や農産加工に取り組むグループや個人で組織し、平成13年6月に相互連携と交流等を目的に設立され、今年で17年目を迎える。

ここ数年間は、近畿府県の大型直売所への視察研修や意見交換会を開催し、グループ間の交流を図ってきたが、高齢化に伴う会員の減少、直売所の解散に伴う退会者の増加などの問題を抱えており、協議会の存続が議論されてきた。

6月5日、伊都振興局において伊都地方ファーマーズマーケット連絡協議会（会長：倉谷孝子）の7グループ18名が出席し、第17回総会が開催された。

今回の総会では、協議会の解散が承認され、今後は各グループがそれぞれに活動を継続していくことを確認した。総会后、お互いの連絡先を交換するなどして別れを惜しんだ。



総会

2. 農業技術講習会 果樹基礎コースの開催

6月20日、農業水産振興課では伊都振興局において第3回果樹（柿）基礎コースを開催し、受講生15名が出席した。

今回は、柿の摘果、灌水、台風対策、防除暦等について有田普及指導員が説明した。また、農作業安全、熱中症予防、農薬安全使用についてもパンフレット等を配布して啓発した。

当日、朝から雨であったが、講義後、九度山町の現地へ移動し、柿の摘果や徒長枝切除などを実演。傷果、奇形果、小玉果を優先的に落とすことを再確認した。

受講者からは、園内の柿の木を見て、「これくらいの大きさの樹でどれくらい収量が採れるの」や、「農薬を混ぜる順番があることを初めて知った」「農薬の混用表がほしい」などの意見が寄せられた。

今後とも、当課では受講者の要望にできる限り沿った形で講習会を運営し、受講生の理解度を深め、柿栽培のプロを養成することを目指していく。



講義する普及指導員



摘果、徒長枝切除の現地実習

3. 観光客向け桃狩り観光始まる

6月21日から、かつらぎ町の河南地区農産物加工販売組合（組合長：倉谷孝子 会員25名）による今シーズンの桃狩り観光が始まった。今年で15年目となり、7月31日までで計155台の観光バスの予約を受けている。

予約の入っている日は、組合員が交代で担当となり、バス内で収穫適期の桃の見分け方と収穫方法を説明し、自園の桃畑に案内する。観光客は園地で各自2個を収穫し、土産用に用意した4個の桃と合わせ6個を持ち帰る。会場では、桃の販売は元より加工品（桃ジャム、いちじくジャム、ブルーベリージャム、金山寺みそ、桃シャーベット等）や野菜の販売も行っている。

農業水産振興課では、今後も組合の運営支援や桃生産への指導を行っていく。



美味しそうな桃を選ぶ来園者



収穫した桃を箱詰め

IV 有田振興局

1. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催！

有田市立糸我小学校では、糸我地区青少年育成会主催による「田んぼの学校」（校長：山崎佳彦）が18年前から行われており、アイガモ農法による米づくりに取り組んでいる。

6月12日には、全校児童による田植えが行われた。山崎氏が田植えの方法について説明した後、育成会メンバーである28名と農業水産振興課職員が支援し、児童は一列に並び、慣れない田んぼに足をすくわれながらも1株ずつ丁寧に植えていった。終了後、児童からは「もっとやりたい」や「難しい」などの声が聞かれた。

また、同月25日に児童が孵化させたアイガモ12羽と大阪の業者より購入したアヒルのヒナ26羽の計38羽を田んぼに放った。

今後も、当課では地域の農業者と共に、農業教育推進事業として学習の支援を行っていく。



田植えの説明をする山崎氏



田植え



放鳥前のヒナ



放鳥する児童ら

2. 有田地方リーダー研修会 ～地域の特産品を使って～ を開催！

6月13日、有田地方生活研究グループ連絡協議会（会長：三角文恵）は、地元農産物の利用拡大、加工技術の向上および栄養バランスのとれた食について学ぶことを目的に、有田川町農産物加工実習販売施設（どんどん広場）において、有田地方リーダー研修会を開催し、当会の会員及び関係者32名が参加した。

今回は有田川町の特産品「山椒」を使ったメニューや家庭料理について、有田地方生活研究グループ連絡協議会会員と農業水産振興課職員が講師を務め、調理を行った。

できあがった料理を参加者全員で試食したところ、いずれのメニューも好評であったが、特に、「山椒入りさばめし」が美味しいとの意見が寄せられた。会員らは料理に舌鼓を打ちながら、各地域産品や家庭料理について熱心に情報交換をしていた。

当課では、今後も生活研究グループの活動支援を行い、地域産品の利用拡大や加工技術の向上に取り組む。



調理実習



皆で試食

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト

【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

～新害虫「クビアカツヤカミキリ」の侵入警戒と「露茜斑入果病(仮称)」のまん延防止～

2018年1月に特定外来生物に指定されたクビアカツヤカミキリは、サクラやモモ、ウメなどのバラ科樹木を食害する害虫で、大阪府や徳島県など7府県で被害が確認されている。

昨年7月、かつらぎ町で成虫1匹が捕獲されたことから、県内への被害拡大が懸念されている。また、「露茜斑入果病(仮称)」は昨年7月にみなべ町内で発見された新たな病害である。

このような新病害虫の侵入警戒とまん延防止のため、本年度からの新たな普及指導計画の重点プロジェクトとして取り組むとともに、梅干し生産に特化した農業経営を改善するため、青梅生産のための省力化技術や「露茜」「翠香」といった特徴ある品種の導入を推進している。

5月31日及び6月29日、うめ研究所、みなべ町、JA紀州の担当者らと、みなべ町内のサクラ樹を植栽している20か所について、クビアカツヤカミキリ巡回調査を実施した。今回の調査では発生が確認されなかったが、今後も継続して調査を実施する予定である。

また、「露茜斑入果病(仮称)」の感染状況を把握するため、今年度、県内の「露茜」苗木全樹のウイロイド検定を実施することとしており、6月下旬から検定用の葉採取及びサンプル調製を開始している。今後、7月～8月にかけて順次、実施するとともに、剪定前にはまん延防止のための講習会を開催する予定である。



クビアカツヤカミキリ発生状況調査



「露茜」ウイロイド検定用試料の調製

2. 日高川町新果樹研究会がカンキツの現地研修会を実施

日高川町新果樹研究会(会長：川越安信)は、6月5日にロイヤルインダストリーズ株式会社の瀬片元治技術部長を招き、カンキツの現地研修会を開催した。

はじめに、日高川町農村環境改善センター内で、本年産カンキツ類の着花状況とこれから求められる栽培管理について、今年の気象条件を交えて講義が行われた。本年の開花期が平年より早く、また着花も多い傾向から早期摘果の実施が重要であること、また、夏期の高温干ばつによる根傷み、さらに、初秋以降の高温多雨による果皮障害への対策が、高品質果実を作るカギになることを説明され、参加者は熱心に耳を傾けていた。また、参加者からは「尿素有の葉面散布と通常施肥との使い分けや実施時期は？」など、樹体管理への熱心な質問があった。

会員の園地へ移動し、樹の状態や品種にあった栽培法の指導を受けた。特に不知火園地では、樹勢や受光環境・葉色の改善と品質や作業性の向上を目的に、夏季の切り上げ剪定の重要性について解説があった。その後、会員らが剪定を実践した。

参加者からは「夏季剪定の方法とその重要性を学べた」、「勉強になった」などの感想があった。



瀬片氏から本年産のみかんづくりの説明



「不知火」の夏季の切り上げ剪定の説明

3. 印南町立稲原小学校で梅の出前授業を実施

6月20日、稲原小学校6年生（15名）を対象に、梅生産者と普及指導員が講師となり、梅の出前授業を実施した。

この出前授業は、県と県教育委員会主催で農林水産業への理解と郷土愛や食に対する感謝の気持ちの醸成を目的に、平成24年度から実施している。

最初に、佐原普及指導員から、梅の生産量や栽培方法、梅の機能性、梅干しの作り方、「みなべ・田辺の梅システム」の世界農業遺産認定などを説明した。

次に、地元の梅生産者である小田美津子氏から、子どもの頃お腹が痛いときや気分が悪いときに青梅で作った梅エキスが特効薬であったことや、梅は一年の中で寒い時期にきれいな花を咲かせ、梅雨に実を収穫し、一番暑い夏場に梅を干す。そんな中で育った梅干しは、健康に良い食べ物であると話した。その後、小田氏が冷凍梅を使った梅ジュースの作り方を実演し、説明を聞いた児童は、保存瓶に冷凍梅と砂糖を交互に入れ、梅ジュース作りを体験した。また、事前に作っていた梅シロップを使っの牛乳割りと梅ジュースを試飲した。

体験を終えた児童からは、「思っていたより簡単に作れた」、「家の人にも作ってあげたい」、「牛乳割りは、ヨーグルトみたい」などの感想が聞かれ、梅への関心が高まった様子だった。



梅ジュースの作り方を実演する
小田美津子氏



梅ジュースづくり体験

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】

～ウメ摘心栽培実証園の収穫調査結果～

ウメ「南高」の着果安定対策として、平成25年から継続して取り組んでいる摘心栽培実証園（田辺市中三栖）の収穫調査を、普及指導員が6月8日と12日に行った。摘心樹と慣行樹の収量を比較すると、1樹平均で摘心樹が1.7倍（図1）、また5カ年の累積収量を比較しても1.5倍（図2）となり、摘心による増収効果が認められた。

今年度は当実証園以外にも、上芳養地区、秋津川地区、新庄地区で摘心講習会を実施しており、農業水産振興課では本実証園で得られたデータを基に摘心処理の効果を講習会や生産者の集う場で情報提供し、取り組み面積を増やしていく。

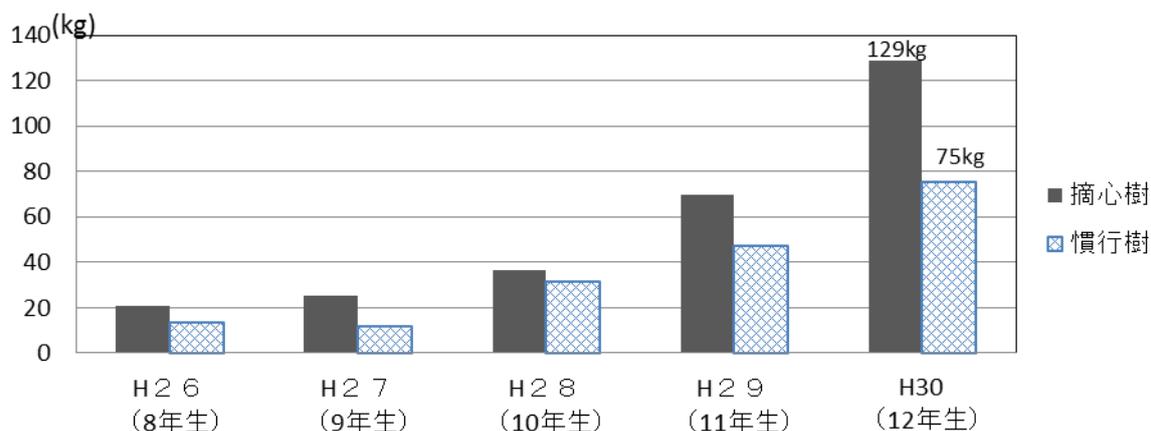


図1 5カ年の収量推移(1樹当たり)



収穫調査

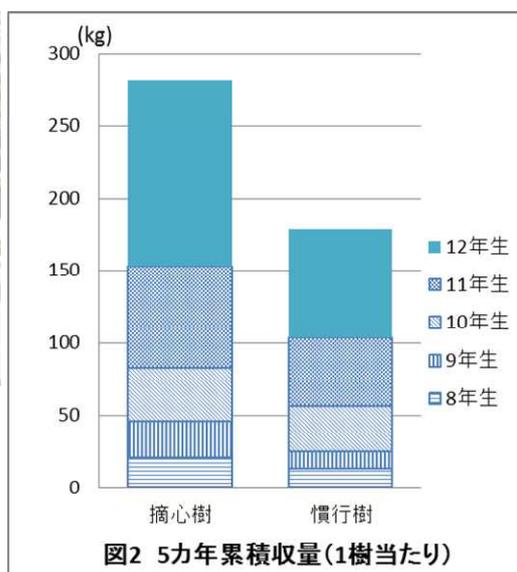


図2 5カ年累積収量(1樹当たり)

2. 上富田町立市ノ瀬小学校で「うめの出前授業」を実施

6月29日、市ノ瀬小学校3年生の児童(20名)を対象として、上富田町生活研究グループ協議会(会長:森きく味)会員2名と農業水産振興課の前田普及指導員、稲葉技師が出向き、うめジュースづくり体験とうめの生産状況等を説明する出前授業を行った。和歌山県では地産地消の取り組みとして、平成24年度から県内小学校・特別支援学校の給食や家庭科等の教材として使用する主要農水産物の提供を行っている。今回は、その取り組みの今年度第1弾である。

まず、うめの生産量・栽培方法について前田普及指導員から説明し、児童は「60%も和歌山で作ってるの?」「梅干しおいしそう!」などと興味深く話を聞いていた。

その後、上富田町生活研究グループ協議会会員で梅生産者の^{こむぎ}麩良子氏と平田秀美氏が講師となり、うめジュース作り体験が行われた。今回は砂糖と梅を同量で作るが、好みによって砂糖の量を変えても良いという説明の後、児童は梅と砂糖を交互に容器に入れていった。

児童らは「できてから飲むのが楽しみ!」「うめのことをいろいろ知れてよかった」とうめジュース作りを楽しんでいた。

今後も当課では関係機関と協力しながら、地域農業を軸とした食育を推進していく。



生産状況を説明する前田普及指導員



うめジュース作り

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】

～イチゴ炭そ病の簡易検定研修（第1回セミナー）を開催～

6月7日、JAみくまの、農業水産振興課は、新規就農者(イチゴ生産者)2名・県農林大学校からの研修生1名を対象に、イチゴ炭そ病の簡易検定研修(第1回セミナー)を開催した。

研修では、当課職員、JAみくまの営農指導員からサンプリングと検定方法について説明した後、管内のイチゴ農家12戸の園地の親株から葉のサンプリングを行った。

その後、研修参加者と共にJAみくまのみさき支所にて、サンプリングした葉の洗浄、エタノールでの殺菌など検定手順に沿って処理を行い、培養器で2週間保管した。

2週間後の6月21日、前回研修参加者の新規就農者を再度参集し、葉に形成される分生孢子塊の有無により判定を行い、結果について各農家に情報提供した。

当課では、今後も関係機関と連携して、イチゴセミナーや現地検討会等により新規就農者の育成を図っていく。



炭そ病検定用検体のサンプリング



炭そ病検定

2. 太田のナス組合がナスの生育・着果状況等を調査

6月18日、太田のナス組合(会長:松本 安弘)は、会員それぞれの園地でナスの生育・着果状況等を調査した。生産者の他、市場関係者、JAみくまの及び農業水産振興課合わせて12名が参加した。

生育状況については、園地により差は見られるものの、全体としてはほぼ平年並みの生育状況であった。一部園地では、整枝作業が遅れ、着果過多による成り疲れ症状が見られた。

5月、6月の天候不良によるうどんこ病の発生や、カスミカメムシ類による新葉の加害が確認され、防除方法について参加者で意見を交換した。

これからも、当課では、関係機関とともに栽培技術の支援を行い、収量増加と高品質出荷を目指していく。



生育・着果調査

3. 那智勝浦町果樹園芸会が定例総会及びポンカン栽培研修会を開催

6月21日、那智勝浦町果樹園芸会（会長：石田 守）14名が狗子ノ川青年クラブにおいて、総会及びポンカンの栽培研修を行った。

総会終了後の研修会では、浅井普及指導員から、東牟婁管内の柑橘類着花状況調査の報告やポンカンで増加しているミカンサビダニの防除、摘果の推進、わかやま農業MBA塾について説明を行った。

参加者からはシカによる被害の現状など獣害対策に関する質問や話題が多く出された。

これからも、農業水産振興課では、関係機関とともに栽培技術の支援を行い、安定生産を目指していく。



ポンカン栽培研修会

4. 三津ノ地域活性化協議会がサツマイモ定植体験を開催

6月30日、三津ノ地域活性化協議会(会長：下阪 殖保)及びJAみくまの、農業水産振興課は、新宮市熊野川町の休耕田を活用してサツマイモ定植体験を行い、市内外の家族連れなど7組(18名)の参加者があった。

下阪会長の挨拶の後、浅井普及指導員が塩ビ管を使ったサツマイモの定植方法について説明した後、協議会メンバーらがサツマイモ苗の植え付け等を指導した。

参加者は、1組当たり長さ4.5mの畝2本にサツマイモ苗を約30本植え付けた後、それぞれ手作りした看板を自分が植えた場所に立てた。

参加者からは「パイプを使って植えるのがおもしろかった。収穫が楽しみ。」といった感想があった。

作業後は、町内で収穫されたトウモロコシをゆでて食べた。

11月頃に、今回植えたサツマイモの収穫体験を予定しており、体験農園を通じて地域住民との交流を図っていく。



塩ビ管を使ってサツマイモ苗を定植



定植したサツマイモ畑

VIII 農林大学校

1. インターンシップ研修を実施

農林大学校2年生を対象としたインターンシップ研修が6月5日から始まり、園芸学科の学生15名は6月19日までの15日間、アグリビジネス学科の学生8名は6月29日までの25日間をそれぞれの配属先で研修を受けた。

学生はそれぞれの専攻や希望進路に応じて、各地域で実践的な農業を行っている農家や、県内の企業などで研修を行った。

学生は農家や企業の経営を体験することで将来の進路について具体的なビジョンを得られた。



研修生と受け入れ農家

2. 農家体験研修を実施

6月25日～29日の5日間、1年生22名が和歌山・海草地域から西牟婁地域の農林大学校OBに受け入れていただき農家体験研修を実施した。

それぞれの地域においてウメの収穫・選果、エダマメの収穫・出荷調整、カキ・ミカンの摘果、イチゴのランナーポット受け、ユリ・グラジオラスの採花・出荷調整等の農作業を体験した。

学生は、県内各地域で活躍する農家の実践技術、農業に対する考え等を聞き将来を考える一つのきっかけになった。



ウメの選果



エダマメの出荷調整

IX 農林大学校 就農支援センター

1. 平成 30 年度社会人課程にて漬けウメの加工実習を実施

6月15日、平成30年度社会人課程研修生が「ウメ加工」についての実習を行った。就農支援センターで収穫した完熟梅を用い、職員の指導の下、ウメの塩漬けの仕方を学んだ。塩とウメを均等に重ねながら漬ける方法や漬ける際のコツについても学んだ。研修生は、ウメにまぶす塩の量やウメと塩の重ね方について職員に質問したり、苦戦しながらも、互いに協力し合って真剣にウメ加工実習に取り組んでいた。

今後、樽に漬けたウメにカビが生えないように管理しながら1ヶ月後に天日干しを行い、7月15日に白干しウメが出来上がる予定であり、この白干しウメを用いて味付け梅干しの加工にチャレンジする。



ウメの選別と洗浄



ウメの漬け込み

X 経営支援課（農業革新支援センター）

1. アブラナ科野菜根こぶ病菌の簡易生物検定研修を開催

経営支援課では、県農業試験場で県下の普及指導員及びJ A営農指導員を対象にアブラナ科野菜の根こぶ病菌の簡易生物検定研修を開催し、普及指導員9名、J A営農指導員8名、農業革新支援専門員1名が出席した。

本研修は、県内のハクサイ、ブロッコリー、タカナ等のアブラナ科の産地で被害を及ぼしている根こぶ病菌の土壌中の菌密度や病原性を調べて、次作の対策に繋げる目的で実施している。

参加者は5月25日に検定作業のスタートとなるセルトレーへの検定土壌の充填方法や播種方法などの説明を受け、実際にこれらの作業を行った。

6月22日には、塩崎農業革新支援専門員及び農業試験場環境部の吉本副主査研究員から、根こぶ病菌の特徴や判定の基準、判定結果を踏まえた防除対策などについて説明を行った後、5月25日に参加者それぞれが仕込み作業を行ったセルトレーの判定実習を行った。

当課では、本研修をとおして普及指導員等の技術向上を図るとともに、現場での防除対策に繋がるように今後も支援していきたい。



5/25 セルトレーへの検定土壌充填



5/25 播種作業



6/22 判定、対策の座学



6/22 判定の実習

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489